

神学部・文学部・社会学部共催 特別研究会

フランスにおけるプロテスタンティズムの現況

バーセル大学教授 オリヴィエ・ミエ

和田光司訳**

目次

序

1. 遺産：長い歴史からの継承による、現在の
特徴と問題点
 - A. 少数派としての地位
 - B. 家系的改革派の地理的拡散
 - C. 信徒の社会的拡散の終結
 - D. 神学的・霊的・教会制度的多様化の傾
向
 - a. フランスにおけるプロテスタント
個人主義
 - b. 教理的分裂
 - c. 現在の多様化
 2. 現在直面している挑戦と、将来への展望
 - A. 信徒と、教会員の構成の観点
 - B. 教会制度とメッセージの観点
- 結論

序

フランス・プロテスタンティズムには、三つの主要な特徴があります。フランスにおけるプロテスタンティズムの現状と、最近の進展を、紹介し、理解しようとするなら、この三点を念頭に置いておくのがよいでしょう。第一に、現在のフランス・プロテスタンティズムが、十六世紀の宗教改革にまで遡りうる、古い（歴史的と言って良い）プロテスタンティズムの形態を継承していることです。その形態の一部は、フランス社会内部における長い歴史によって、形成されています。第二に、プロテスタンティズムは、かつて、多数派と

なることに成功したことがなかった、ということです。フランス社会は、十六世紀の宗教改革の時代には、カトリックに留まっており、その後も、カトリックの色彩を帯び続けてきました。強い世俗化の時代である今日でさえ、そうであります。最後に、プロテスタンティズムは、少数派として、フランスに歴史的に根を下ろしましたが、それはラテン系の国であった、ということです。しかし、他のラテンの大国（とりわけ、イタリアとスペイン）とは異なり、フランス・プロテスタンティズムは、重要性を持つ少数派であり、それが根をおろした社会において、強い歴史的な役割をはたしました。幾つかの数字を参照しましょう。今日フランスでは、人口約6千万人中、約90万人がプロテスタントです。その中には、東部のアルザス・ロレーヌ地方にいる、27万人が含まれています（この地方は、アンシャン・レジームにおいて、迫害を経験しませんでした）。それは、主としてルター派信徒ですが、改革派の信徒もいます。フランスの他の場所には、4万人のルター派と40万人のフランス改革派の信徒がいます。これらの数字は、イタリアとスペインには20万人のプロテスタントしかいないことと比較すれば、その意味するところをよく理解できます。そのように、フランス・プロテスタンティズムは、ヨーロッパの宗教地図のなかで、例外的な存在なのです。アングロ・サクソンやゲルマン系の多くの国（イギリス・スコットランド・オランダ・ドイツ・スカンジナビア等）で起こったこととは異なり、自国において優勢を得るには至りませんでした。しかし、他のラテン諸国とは異なり、プロテスタント

*キーワード：フランス、プロテスタンティズム、教会史

**前関西学院大学社会学部兼任講師、現聖学院大学政治経済学部専任講師